Ja-Net 季刊ジャネット
October 2016 No. 79
Ja-Net は Japanese Network の略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。
スリーエーネットワーク

Contents 目次

2016 年 10 月 25 日発行

● View from the Other Side …… 3
ビクトル・ゴルシコフさん（ロシア）
● あちこち日本語ご紹介〈国内編〉…… 4
三重県　伊賀市
● あちこち日本語ご紹介〈海外編〉…… 5
中国　丹東市
● 教材紹介 …… 6
『改訂版　日本語中級 J301 ー中級前期ー 英語版』
「みんなの日本語」シリーズのお知らせ
● なんでも情報 BOX…… 8

巻　頭
寄　稿

国境を越えた天文学教育普及活動

国立天文台　専門研究職員
臼田 - 佐藤 功美子

ハワイの天文台群

1998 年から 15 年間、アメリカ・ハワイ島に住み、地元に根ざした天文学教育普及活動を行ってきました。ハワイ諸島の中で一番東側に位置するハワイ島は、四国の半分程度の大きな島ですが、富士山よりも高い山、標高 4200 メートルのマウナケアがあります。山頂は空気が薄くて乾燥しており、晴天率も高いことから、世界で最も天文観測に適した場所のひとつとして知られています。日本のすばる望遠鏡など、世界有数の望遠鏡が稼働中です。

すばる望遠鏡は 1999 年に観測を開始しました。口径 8.2 メートルという、学校の教室程度もある世界最大級の鏡を使って、宇宙からのかすかな光を集めます。望遠鏡は遠方からの光を集める道具ですが、鏡が大きいほど多くの光が集まり、暗いものを見ることが可能になります。と同時に、鏡が大きいほど「視力（細かいものを分解して見る能力）」が高くなります。暗い天体を詳細に調べるため、人類は技術を発展させ、大きな望遠鏡を建設してきました。

すばる望遠鏡で観測することにより、これまで見えなかった遠い銀河が見えてきました。例えば、私たちの宇宙が始まってから間もないころの銀河です。惑星が形成される現場も見えてきました。私たちの太陽系には地球や木星など８つの惑星がありますが、最近は世界中の望遠鏡で、太陽とは別の恒星の周りをまわる太陽系外惑星や、赤ちゃん星の周りで惑星がうまれる現場が調べられています。恒星の周りに惑星があるのは、ありふれたことだとわかってきたのです。そうなると、地球外生命はいるのだろうか？ 宇宙人はいるのだろうか？といった興味も湧いてきます。

ハワイと宇宙の関わり今昔

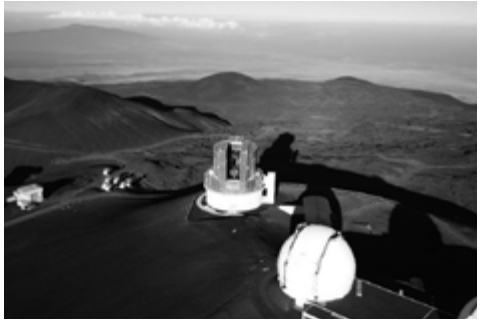
天文学と観測技術の発展により、地球外生命について科学的に考えられるようになりました。発見された太陽系外惑星の中には、地球の大きさに似たものもあります。さらに、中心の恒星からの距離が熱過ぎず寒過ぎず丁度良く、地球のように液体の水が存在する可能性が高い惑星も見つかっています。しかしそのような惑星に、生命に関連した酸素や有機物があるのかどうかを調べるのは、すばる望遠鏡のような世界最大級の望遠鏡でも困難です。さらに多くの光を集められる、より大きな望遠鏡が必要となります。

そこで現在、世界では、より大きな鏡を持つ、超大型地上望遠鏡の計画が複数進んでいます。その中で日本が関わっているプロジェクトが、口径 30 メートルの望遠鏡 TMT（Thirty Meter Telescope）です。アメリカ、カナダ、中国、インドとの国際協力のもと、ハワイ島マウナケア山頂に望遠鏡を建設します。2027 年の観測開始を目指していますが、太陽系外惑星の大気に、生命に関連した物質があるかが調べられると期待されています。遠い宇宙の観測でも、現在知られている「最も遠い銀河」よりさらに遠く、宇宙が始まってから最初にうまれた星々や銀河の観測を目指します。

このようにハワイには、世界最先端の望遠鏡が集まっています。地球上で観測条件の良い場所が限られているため、天文台が集まる傾向がありますが、天文学は最も国際的な学問のひとつと言ってもよいでしょう。

ハワイと宇宙との関わりは、天文台群だ

けではありません。ハワイの先住民である古代ポリネシア人は、星々の配置を覚え、星をコンパス代わりにした伝統的航海術を駆使してカヌーで太平洋を渡り、ハワイにたどり着きました。古代の航海士は、星を読み解く天文学者だったのです。今でも伝統的なカヌー、ホクレア号での実践が行われています。当時の最先端の技術を使って宇宙を注意深く観察し、未知なる世界を探検・探求するのは、古代の航海士も、現代の天文学者も同じだと言ってよいでしょう。



マウナケア山頂の天文台群。中央に写っている円筒形のドームの中にすばる望遠鏡がある（画像提供　国立天文台）

ハワイでの出前授業の様子

ハワイでの天文学教育普及活動

私が初めて地元ハワイで出前授業を行ったのは、娘の３歳児クラスでした。保育園の担任の先生から「宇宙の話をしてほしい」と頼まれたのです。３歳児が理解できて楽しめる話ということで、紙芝居を作って月の話をしました。これをきっかけに、他のクラスや学校でも話をするようになりました。様々な学年で年齢にあった授業をしたり、週末の理科教室でワークショップを行ったり、教員向けの研修をしたりしました。

授業の依頼は小学校のクラスからが多かったのですが、子供の興味を持続させるため、常に質問を投げかけ、答えてもらいながら授業をすすめました。小学生と違って中学生はあまり手を挙げてくれませんが、それでも質問を投げかけ、答えを考えてもらうようにしました。星の名前はハワイ語名を使うなど、地元の子供達が親しみやすく感じられるように努力しました。もうひとつの工夫は「ハンズオン」です。授業の合間に、自分達で手を動かす作業を挿入しました。例えば天体の大きさについて話をした後、いろいろな天体の写真を子供達に手渡し、大きさの順番に並べてもらいました。算数の選抜クラスでは、簡単な計算やグラフかきなども行いました。

出前授業や週末のイベントで最も頻繁に行ったのは「虹を見よう」という実験です。無色の太陽光をプリズムなどに入れると、赤から紫までの虹の７色に分かれます。このように光を色別（波長別）に分けることを「分光」といいます。雨上がりには空気中の雨粒が太陽光を分光するので、虹が見えるのです。分光は、光源のかくれた情報を引き出すため、科学工学分野でとても重要な研究手段です。例えば太陽光を分光した虹色の帯の中には、細い暗線（フラウンホーファー線）がたくさん見つかります。この暗線から、太陽の大気にある元素がわかります。同様に分光により、他の恒星大気の組成も調べることができます。超大型地上望遠鏡 TMT では、太陽系外惑星を分光して大気組成を調べ、生命に関連した物質をさがす予定です。。

簡単な分光器は身近な CD や DVD で作れます。表面に細かいギザギザがあり、虹のような色が見えていますが、これが良い分光器になるのです。CD で分光器を作り、電球など身近な光源の「虹」（色のパターン）を見て、その違いを調べてもらうというワークショップをよく行いました。工作する時間がない時には、名刺サイズの紙に穴をあけ、そこに「分光フィルム」を貼った分光カードを配布し、電球などの「虹」を見てもらいました。天文学は日常生活とは無縁の、遠い世界に感じられるかもしれません。しかし実際は「虹」など身近な科学を使っているのです。このように、天文学を身近な科学とつなげることを意識して活動を行っています。

人類はひとつ、見上げる空もひとつ

私は今まで「年齢を問わず、言語・国籍を問わず、障害の有無を問わず、宇宙にふれる楽しみを多くの人と共有する」活動をしてきたつもりです。視覚や聴覚など障害を持つ方々とも、一緒に楽しみたいと常に思っています。「目が見えなくても、今晩星が見えるだろうか、と思うと心があたたかくなる」「見える人たちと一緒に流れ星の観察をして、まわりで“あ、流れた”という声が聞こえるのが楽しい」といったエピソードを聞くことがあります。これまで天文好きの視覚障害者と沢山出会い、宇宙への興味に視覚の有無は関係ないかもしれないと感じます。

国立天文台三鷹では、施設の一部を公開していますが、その「見学ガイド」点字版・拡大文字版を、視覚障害者とともに作成しました。最近は、触って理解できる望遠鏡等の模型開発を進めたり、宇宙を表現するための「天文手話」ワーキンググループに入ったりしています。宇宙に関する既存の手話を調べると、表現の多彩さに感銘を受けます。聴覚の有無に関わらず、天文手話を通じて宇宙のようすや天文現象の理解が深まると確信しています。

このような取り組みは、国際天文学会である国際天文学連合でも「マイノリティーや障害者に対応した天文学」ワーキンググループがたち上がり、私もメンバーに加えていただいています。見えない人にもわかりやすい丁寧な図の解説を行うことで、見える人の理解も深まる、あるいは聞こえない人用に字幕をつけることで、万人にわかりやすくなる、そのような活動を目指しています。宇宙への興味は国や文化が違っても、障害があっても、万人共通です。それは誰もが地球というひとつの惑星から、同じ星空を見上げているからではないでしょうか。今後も、より多くの人とともに楽しめる活動をすすめていきたいと考えています。

臼田 - 佐藤 功美子　うすだ - さとう・くみこ

国立天文台・天文情報センター専門研究職員。理学博士。1998 年より 2013 年までの 15 年間は、国立天文台ハワイ観測所特別研究員、同専門研究職員、ハワイ大学ヒロ校付属イミロア天文学センターボランティアとして地元に根ざした天文学教育・普及活動に力を注いだ。マウナケア天文普及委員会メンバーとして数々の天文イベントを企画し実行してきた。帰国後は、国際天文学連合・国際普及室などにも所属し、国内外で天文学教育普及活動を行っている。著書に「大宇宙　驚異の新発見」（2015 年、河出書房新社）がある。
国立天文台 http://www.nao.ac.jp/

学習者の目 View from the Other Side

このコラムでは、学習者の視点での話題をお届けします

教育

—日本から見えてきたこと—

ビクトル・ゴルシコフ

ロシア連邦ハバロフスク出身。英語講師・日系企業での経験を経て、2008 年に日本政府文部科学省研究留学生として来日。京都大学大学院経済学研究科後期博士課程を修了し、博士（経済学）を取得。数多くの国際交流プログラムに参加している。現在、開智国際大学准教授。研究分野は国際経済関係、銀行の海外進出、国際理解と英語教育。

先生になりたい

語学の勉強が大好きで、小学生の頃から先生という職業に憧れていました。ロシアでは学校の教師の社会的な立場は高くなく、男性が教師という職業をあまり選ばないのが現状です。母親も芸術の教師ということもあり、大学受験の際に、両親が教育学部への進学を歓迎しませんでした。そこで、海外にも関心を持っていた私は、外国語も勉強できる国際経済関係学部へ入学、そこで日本語と出会いました。

“Think like Japanese” 日本・日本語との出会い

ロシアの大学に入学する前に、英語通訳の学校を卒業していたこともあり、また、極東ロシアは地理的にアジアに近いということから、第一外国語として日本語を選びました。先生は日露青年交流センターから派遣された日本人教師で、日本語を日本語で教えるという教育方法のもとで、5年間学びました。当時、最初に使用したテキストは『みんなの日本語』で、その時の宿題プリントなどは未だに大切に保管しています。

その先生との、あるエピソードは今でも忘れられません。先生のテストでは、毎回授業で習っていない問題文が入っていました。「それはどうしてですか」と聞くと、先生は「Try to think like Japanese」と答えました。文法の丸暗記だけではなく、日本人のように考えてみること、語学センスを磨くことの大切さを、その先生に教わりました。

1年後、先生は帰国してしまいましたが、手紙を交換することで頻繁に連絡を取りました。私が書いた間違いだらけの手紙をコピーし、丁寧に赤ペンで直して手紙の返信と一緒に送って下さいました。先生のお手紙から、日本語の表現を勉強することも多々ありました。

初めて訪れた日本はハバロフスク市と姉妹都市である新潟市でした。新潟の大学を一週間訪問し、そこで出会った日本人学生がロシアの実家にホームステイに来てくれたこともありました。その後も、何回か来日したことがありましたが、どれも短期間で、いつか日本に住んでみたいという憧れを持つようになりました。そして 2008 年、その夢は現実になりました。

日本政府文部科学省奨学金で京都大学への研究留学生として来日し、さらに修士課程、博士課程に進学しました。当初 2 年の予定だった日本滞在は、気付けば 9 年目に入っています。

大学教員の道へ

日本に来てから今まで、勉強はもちろんのこと、国際研究プロジェクトや調査など、日本の小・中・高等学校における国際教育・交流、英語教育にも積極的に関わってきました。このような経験は、外国人である私にとって、異文化交流の重要な機会であると考えています。また、在日外国人との交流の機会が多く、私自身、もともと外国語教育への関心が強いことから、日本に来てからフランス語の勉強も始めました。

現在は日本で大学教員として教育に携わり、国際経営論・国際政治経済学の重要な研究領域の一つである多国籍企業（銀行）を研究しています。また、英語・日本語による専門科目（経済学、国際経営論など）を担当し、日本人学生・留学生にグローバルシンキングやグローバルな価値観が身に付くよう、授業をインタラクティブに行うことを心がけています。

具体的には、授業は毎回ブレーンストーミングから始め、ディスカッションや補足説明という流れで展開しています。また、各国のビジネス慣行・政治・経済・文化・制度などの要素も取り入れることで、多様なバックグラウンドを持つ学生たちの興味関心を引き出し、何を学ぶかだけではなく、どのように学ぶかという大切さを教えています。授業を教える側が教わることもあり、インタラクティブな授業は学生と教員の相互の学び合いの場であることを実感しています。

教育を通じて伝えたいこと

これまでを振り返って「グローバル」とは何かと考えた時、自国に対する深い理解と、異文化への知見を持つことが、その土台になると気付きました。憧れていた日本で夢だった教育分野に関わる今、自分の土台をしっかり築いた上で、他者を尊重し、自分を磨き続けていくことの大切さを、教育を通じて学生たちに伝えていきたいと思います。これからも外国語を学びのツールとして使用し、また、社会科学を学んだ者として、ロシアと日本両国の社会・経済・政治・文化に対する理解推進に努めていきたいと思います。

あちこち

日本語ご紹介 | 国内編

三重県　伊賀市

忍者のふるさとから発信する多文化共生

伊賀日本語の会
テクニカルアドバイザー　船見　和秀

1．伊賀日本語の会の発足経緯と特徴

伊賀市は、伊賀忍者と松尾芭蕉の生誕地として知られる小さな城下町ですが、多くの外国人が暮らす多文化の街でもあります。そのようなイメージはあまり無いかもしれませんが、実は三重県内に在住する外国人の比率が約4.6%と最も高く、約50か国の人々が暮らしています。

「伊賀日本語の会」は1993年10月、約20人でスタートしました。当時、私は日本語教師養成講座を受講中で、「いいタイミングで、面白いことが始まるな。ぜひ、参加してみたい」と心が躍りました。そして現在、フリーの日本語教師として活動しています。

会の発足にあたり、旧上野市に協力を申し入れ、市側もこれを快諾、無償で場所の提供を受け、職員の方々にもお手伝いを頂きました。学習者は日系人を中心に最大100人に、ボランティアも約30人まで増えました。

特徴は、発足当時から続く「クラス形式」の活動です。現在、水曜日は1回完結型として「会話（初級・中上級）」と「読み書き」、土曜日は『みんなの日本語』を基にした継続型として「（総合日本語）初級」「（同）中級」「日本語能力試験」のクラスを設定しています。

2．教室の様子

発足当初の1990年代は、ブラジルを中心とした南米日系人が大半を占めていましたが、20年以上を経過した今、アジア中心にシフトし、現在の学習者は約50人。国籍は、ブラジル、ペルー、インドネシア、ミャンマー、ベトナム、トルコ、キルギス、マダガスカル、パキスタンなど15か国以上で過去最多となっています。日本語能力試験の合格を目指す学習者も増加傾向にあります。街中で多様な言語・文化を持つ人同士が日本語を「共通語」として、話している姿を見ると「ああ、いいな」と微笑ましく思います。どの国の人でも理解できる、地域の共通語としての働きを持つ「やさしい日本語」の重要性が今後ますます高まっていくと思います。

3．活動を通じて感じたこと・得たこと

早い時期に来日し伊賀市に定住した元学習者が努力し、日本で自己実現をしていく過程に関わることができたのは、私にとって、大きな財産となっています。

かつての学習者たちは、大学院を卒業後、2人は大学の講師、1人は上場企業の正社員となった3兄弟、兵庫県の高等学校で情報科の教員として勤務する者、自動車メーカーで品質管理の仕事に関わる者、公立保育所に勤務する者、日本国籍を取得し、警察官を目指す者など多様な道に進んでいます。また、自治会の役員を積極的に引き受ける人もいます。

ロールモデルとなる成功した同胞の人が身近にいることは、後輩たちにとても良い影響を与えていると思います。小学生・中学生で高い日本語能力を身に付け、同時に母語保持も行い、進路を開拓していく子どもたちが数多くいます。市内の外国につながる中学生の高校進学率は過去10年で約82%、大半が昼間の高等学校に進んでいます。

私個人も活動が広がりました。市の教育委員会からの委託で日本語指導コーディネーターとして、各学校を巡回しています。隣接する自治体での教職員研修、日本語ボランティア研修、一般の方・行政職員を対象に「やさしい日本語」の研修を担当することも増えてきました。

4．今後の展望

人口減少社会を迎え、コミュニティーをどう構築していくかが議論されています。地域日本語学習支援活動を通し、教育委員会、国際交流協会、行政、他のＮＰＯ、他府県の日本語教室・ネットワークなどと情報・ノウハウを共有化し、日本人も外国人も、安心して暮らせる多文化共生の地方都市のモデルとなれたら、少し面白い未来がそこにあるのかもしれません。地方の小規模な街だからこそできるコミュニティー作りの一翼をこれからも担っていきたいです。

自己実現のため、日本語学習でキャリアアップを目指す学習者（左端が筆者）

外国につながりを持つ子どもたちに、日本語を教える方向けのDVD『どこでも、だれでも日本語指導「日本語指導の基礎」』（公益財団法人三重県国際交流財団制作）を三重県インターネット放送局でご覧いただけます。「日本語を教えるとは」から「日本語指導の発想に基づく教科指導の模擬授業」までの5編構成で、船見氏が講師として出演し、わかりやすく解説されています。
http://www.pref.mie.lg.jp/MOVIE/005361.htm

あちこち 日本語ご紹介 | 海外編

中国　丹東市

中国の国境都市で日本語を学ぶ

遼東学院　外国語学院　日本語学科
主任　陳思佳

丹東は遼寧省の南東部に位置し、東は鴨緑江を隔てて朝鮮民主主義人民共和国と接し、南は黄海に臨み、主に工業・物流・観光で発展してきた中国最大の国境都市です。毎年数多くの観光客が訪れ、観光都市のランキングでも上位にあがっています。

遼東学院は丹東市にある唯一の、省属の本科大学（4 年制）で、市内 2 つのキャンパスに約 16,000 人の学生が在籍しています。キャンパスは、鴨緑江沿岸と温泉の観光地として有名な五龍山の麓にあり、どちらも自然に恵まれた環境です。本学には、全 17 の学院（学部）があり、日本語学科は外国語学院の中にあります。

子供の日をテーマにした 1 年生の会話授業

日本語学科について

日本語学科は、現在は 4 年制の学科（本科）ですが、もともと 2000 年にできた 3 年制のビジネス日本語学科（専科）が前身となっています。これまで、1,000 人以上の専科卒業生を送り出してきましたが、彼らが在学中に参加したインターンシップは、外資系企業や政府機関等から高い評価を得てきました。また、教員養成、教育環境の改善、そして教員たちの研究水準の向上など 14 年間の様々な功績により、2014 年 9 月から本科大学として認められ、再スタートすることになりました。

教員は中国人 12 人で、8 割が日本へ留学した経験を持っています。現在は、1 クラス 25 人程度で、これまで 75 人の本科学科の学生を迎えてきました。学生たちは、遼寧省出身者もいれば、他の省から来る人もいますが、全寮制（4 ～ 10 人部屋）のため、授業以外でも学校生活のほとんどをクラスメートと共に過ごしています。3 年半は学業に専念し、卒業までの残り半年はインターンシップ期間となり、企業実習に行きます。

社会で通用する人材育成

2015 年、中国の多くの大学は、これまでの分類からより詳細な「研究型大学」、「教学研究型大学」、「応用技術型大学」の 3 つに分類されました。遼寧省教育庁は省内の 10 の大学を「応用技術型大学」とし、本学はその 1 つに位置付けられました。「応用技術型大学」というのは、就職して社会ですぐに通用する人材を育成することを目的としています。日本語学科では、より実用的なことを学び、それをしっかりと身につけるために、語学学校と提携をして、実体験を通じて即戦力となる人材育成を目指します。今後計画していることは、提携した語学学校の教員を本学へ呼び、ビジネスマナーの指導をしてもらうこと、また、インターンシップ期間中に学生を提携校へ派遣し、教師経験を積ませることなどです。現在はまだ 4 年生がいないので実現していませんが、今後このように進めようと考えています。

また、日本語学科は「実践学期」や外国語学院文化祭を通じ、学生が積極的に日本語を使えるよう工夫を凝らしています。「実践学期」は毎学期末に 2 週間かけて、アニメのアフレコ、ストーリーテリングコンテスト、着物の着付け、日本料理・茶道体験等を行っています。文化祭は、学生の学習意欲を引き出すための重要な行事の一環として、年に一回開催されています。スピード勝負の語彙テスト、学習の集大成となるスピーチコンテストを行い、学生たちは当日に向け懸命に練習や勉強に励んでいます。

今後の展望

日本語学科は今や専科から本科へと変わりましたが、今後ますますの発展へと繋げられるように明確な目標を立てています。まず、必要な日本語の書籍や資料を購入できるように教育費の予算を立て、教材を充実させます。次に教育環境を整備するため、茶道体験室を施設として使用できるように申請します。そして、今後日本の教育機関と連携し、交換留学などを通し、日中間の交流を強化していきたいと考えています。

教材紹介

『改訂版　日本語中級 J301 －中級前期－ 英語版』

石沢弘子・新内康子・関正昭・外崎淑子・平高史也・鶴尾能子・土岐哲　著
B5 判　180 頁　別冊 48 頁（予定）　CD 付　2,500 円＋税　11 月発行予定

「読む・書く」を軸とする日本語能力と自己開発力の養成

元東海大学教授　関　正昭

『日本語中級 J301 －基礎から中級へ－ 英語版』(1995)<以下、旧版>の刊行から 21 年経ち、日本語教育を取り巻く環境も変わりましたので、改訂を行いました。教科書の理念を堅持しながら、特に練習問題の充実をはかりました。

1．学習対象者

「J301」には、「初級で約 300 時間の学習を終えたみなさんのための 301 時間目からの教科書」という意味があります。旧版の副題には「基礎から中級へ」とありましたが、これは初級から中級段階への橋渡し教材であることを表していました。改訂版の副題は旧版とちがって「中級前期」としました。橋渡し教材としての性格をやや薄くして、難易度をわずかながらアップさせたからです。進学や日本語力の向上など、さまざまな目的で日本語を学習している人を対象としている点は旧版と同じです。

2．教科書の理念

この教科書の理念・めざすものは①読み書きを軸とする日本語能力の養成②自己開発能力の養成です。学習者が持てる知識や技能、経験等を投入し、文章を能動的に読み取る力、書ける力を養います。現実の世界をどのように認識し、伝え、どのような新しい世界を作っていくか、そのための手段としての日本語の習得を目的としています。

3．本書の構成

全 10 課で構成され、各課とも以下のパートから成ります。

◆（本文を）読むまえに
学習者の知識や関心を引き出し、スキーマを活性化することを目的としています。

◆本文
学習者の興味や関心を惹き付ける内容で、かつ一定の型を持った文章を精選してあります。旧版から半数を差し替えました。

◆（本文の）文章の型
その型を把握しやすくするために図式化してあります。改訂にあたり、更に分かりやすく、書き込みもしやすくしました。

◆（本文に関する）Q&A
学習者自身で的確な「読み」ができているかをチェックします。

◆文法ノート
本文から、『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ 第2版』の終了段階で未習と見なされる文法事項を取り上げ、英語で説明してあります。

◆（文法）練習
文法ノートで取り上げた文法項目の用法を練習します。

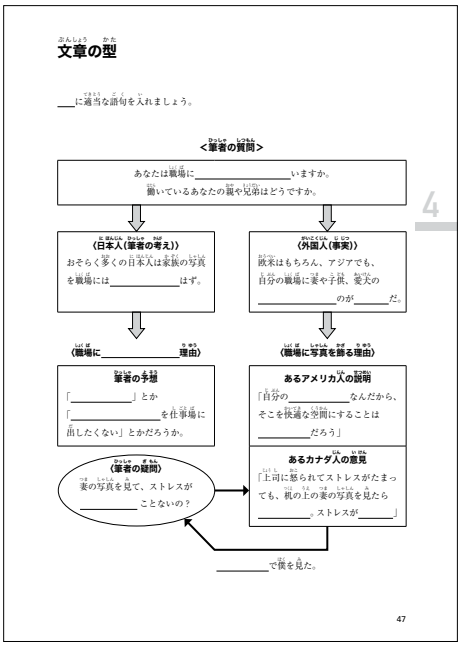
◆ことばのネットワーク
漢字の造語力、動詞と助詞の共起関係、類義語、多義語、成句表現などの練習問題によって語彙力のアップを図ります。

◆書いてみよう
与えられた課題について、文章の型に倣って書く練習とそれに役立つキーワードなどの練習が配してあります。

◆話し合ってみよう
学習者同士が協力して意見交換ができるように、発表や話し合いに必要な表現の練習を配してあります。

[目次]第 1 課 舌を出したアインシュタイン／第 2 課 わたしと小鳥とすずと／第 3 課 ロボットの始まりは／第 4 課 写真好きの日本人は、なぜ家族の写真を職場に飾らないのか／第 5 課 どのくらい待たされるとイライラしますか／第 6 課 妖怪ブームが根強いのはなぜ？／第 7 課 “想定外”の地震だった？／第 8 課 クジラと日本人／第 9 課 サルの視力検査／第 10 課 子どもの絵

＊別冊に新出語と解答例を掲載しました。新出語の選定基準には『みんなの日本語　初級Ⅰ・Ⅱ 第2版』を用い、原則として同書で提出されている語彙を除き、訳語と提出箇所を掲載しました。
＊本文を録音した CD を本冊に付しました。
＊教師用マニュアルはスリーエーネットワークのウェブ上に公開されます。



「みんなの日本語初級【初版】」販売期限のお知らせ

「みんなの日本語初級【初版】」シリーズは、『みんなの日本語 初級Ⅰ 聴解タスク 25』『同 初級Ⅱ』を除き、2016 年 12 月で販売を終了いたします。初版販売終了にあたり、以下ご留意ください。

● 2016 年 12 月以前でも、品切れになり次第、絶版になるものがあります。ただし、『本冊（漢字かなまじり版）』『教え方の手引き』『標準問題集』『書いて覚える文型練習帳』については、2016 年 12 月まで在庫を維持します。絶版書籍の情報は随時ウェブサイト等でお知らせいたします。

●『みんなの日本語 初級 聴解タスク 25【初版】』については、『同　第 2 版』が出版されるまで、引き続き、販売を行います。（発行は 2017 年以降の予定）

『みんなの日本語 初級 聴解タスク 25【初版】』を『みんなの日本語 初級 第 2 版 本冊』と一緒にお使いになる方に向けた資料（英・中・韓・ベトナム語訳付き語彙対応表）をウェブサイトで公開しております。（http://www.3anet.co.jp/ja-teach-support/）

●すでに絶版になっている初版の書籍は以下の 6 点です。
『初級Ⅰ 漢字 韓国語版』『初級Ⅱ 漢字 韓国語版』『初級Ⅰ 漢字カードブック』『初級Ⅰ 練習 C・会話イラストシート』『初級Ⅱ 導入・練習イラスト集』『初級Ⅰ B4 サイズ絵教材』

●「第 2 版」シリーズの今後の発行は『初級Ⅱ 第 2 版 教え方の手引き』が 2016 年 12 月、『初級Ⅱ 第 2 版 漢字 英語版』が 2017 年 1 月、『初級Ⅱ 第 2 版 翻訳・文法解説ロシア語版（新版）』が 2017 年中の予定です。

「みんなの日本語」シリーズラインナップ

★は 2016 年 10 月 25 日現在発売中の書籍です。価格はすべて本体価格です。

『みんなの日本語 初級Ⅰ 第 2 版』

★本冊	2,500 円
★本冊 ローマ字版	2,500 円
★翻訳・文法解説 英語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 中国語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 韓国語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 スペイン語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 ポルトガル語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 ドイツ語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 フランス語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 イタリア語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 ベトナム語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 タイ語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 インドネシア語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 ロシア語版（新版）	2,000 円
★翻訳・文法解説 ローマ字版【英語】	2,000 円
★標準問題集	900 円
★書いて覚える文型練習帳	1,300 円
★漢字練習帳	900 円
★漢字 英語版	1,800 円
★漢字 ベトナム語版	1,800 円
★導入・練習イラスト集	2,200 円
★絵教材 CD-ROM ブック	3,000 円
聴解タスク25	2,000 円
《2017年以降発行予定》	（予価）
★初級で読めるトピック 25	1,400 円
★教え方の手引き	2,800 円
★ CD5 枚セット	8,000 円
★会話 DVD	8,000 円
★会話 DVD PAL 方式	8,000 円

『みんなの日本語 初級Ⅱ 第 2 版』

★本冊	2,500 円
★翻訳・文法解説 英語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 中国語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 韓国語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 スペイン語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 ポルトガル語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 ドイツ語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 フランス語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 イタリア語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 ベトナム語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 タイ語版	2,000 円
★翻訳・文法解説 インドネシア語版	2,000 円
翻訳・文法解説 ロシア語版（新版）	2,000 円
《2017年中発行予定》	（予価）
★標準問題集	900 円
★書いて覚える文型練習帳	1,300 円
★漢字練習帳	1,200 円
漢字 英語版 《2017 年 1 月発行予定》	1,800 円
★導入・練習イラスト集	2,400 円
★絵教材 CD-ROM ブック	3,000 円
聴解タスク25	2,400 円
《2017 年以降発行予定》	（予価）
★初級で読めるトピック 25	1,400 円
教え方の手引き	2,800 円
《12 月発行予定》	（予価）
★ CD5 枚セット	8,000 円
★会話 DVD	8,000 円
★会話 DVD PAL 方式	8,000 円
★やさしい作文	1,200 円

『みんなの日本語 中級Ⅰ』

★本冊	2,800 円
★翻訳・文法解説 英語版	1,600 円
★翻訳・文法解説 中国語版	1,600 円
★翻訳・文法解説 韓国語版	1,600 円
★翻訳・文法解説 スペイン語版	1,600 円
★翻訳・文法解説 ポルトガル語版	1,600 円
★翻訳・文法解説 ドイツ語版	1,600 円
★翻訳・文法解説 フランス語版	1,600 円
★翻訳・文法解説 ベトナム語版	1,600 円
★標準問題集	900 円
★くり返して覚える単語帳	900 円
★教え方の手引き	2,500 円

『みんなの日本語 中級Ⅱ』

★本冊	2,800 円
★翻訳・文法解説 英語版	1,800 円
★翻訳・文法解説 中国語版	1,800 円
翻訳・文法解説 韓国語版	1,800 円
	（予価）
★翻訳・文法解説 スペイン語版	1,800 円
★翻訳・文法解説 ポルトガル語版	1,800 円
★翻訳・文法解説 ドイツ語版	1,800 円
★翻訳・文法解説 フランス語版	1,800 円
★翻訳・文法解説 ベトナム語版	1,800 円
★標準問題集	900 円
くり返して覚える単語帳	900 円
《12 月発行予定》	（予価）
★教え方の手引き	2,500 円

『語彙訳』ラインナップ　［**初級Ⅰ**］中国語繁体字、ペルシア語、ネパール語、ビルマ語、アラビア語、アルバニア語、アゼルバイジャン語　［**初級Ⅱ**］ペルシア語、ネパール語、ビルマ語、アラビア語　［**中級Ⅰ**］イタリア語

※『語彙訳』は書店での販売はありません。ご希望の方は第一営業部（TEL:03-5275-2722　E-mail:sales@3anet.co.jp）までお知らせください。
販売価格は 800 円（税・送料込み）です。

なんでも情報 BOX

Books ほん

すべて本体価格です

改訂版　日本語中級 J301 －中級前期－ 英語版	11 月発行予定	2,500 円
人を動かす！ 実戦ビジネス日本語会話　中級 1	11 月発行予定	2,400 円
みんなの日本語 初級 II 第 2 版 教え方の手引き	12 月発行予定	2,800 円（予価）
みんなの日本語 中級 II くり返して覚える単語帳	12 月発行予定	900 円（予価）
みんなの日本語 初級 II 第 2 版 漢字 英語版	1 月発行予定	1,800 円（予価）

Seminars セミナー

九州日本語教育連絡協議会
2016 年度 12 月研修会
初級日本語の教え方を見直す―『みんなの日本語 初級 I 第 2 版』を使った授業の進め方―

講師：田中よね
（『みんなの日本語』執筆協力者）
日時：12 月 10 日（土）13：00-16：30
（受付開始 12：30）
会場：福岡大学　A 棟 401 教室
（福岡県福岡市城南区七隈 8-19-1）
＊福岡大学の駐車場はご使用になれませんので、ご注意ください。
定員：100 名（先着順。定員になり次第締め切ります）
参加費：1,000 円（当日納入）
申込み先：スリーエーネットワーク講座係
102-0083 東京都千代田区麹町 3-4
トラスティ麹町ビル 2F
FAX：03-5275-2729
E-mail：kouza@3anet.co.jp
お名前・ご所属・ご住所・お電話番号を明記してください。電話でのお申込みはお受けできませんので、FAX、E-mail、はがきにてお申込みください。
問合せ：スリーエーネットワーク講座係
TEL：03-5275-2722
九州日本語教育連絡協議会事務局（川邊）
E-mail：r-kawabe@fwu.ac.jp
主催：九州日本語教育連絡協議会
共催：スリーエーネットワーク
協力：大谷書店

『日本語教育のスタートライン　本気で日本語教師を目指す人のための入門書』発行記念セミナー
地域でも、学校でも「プロフェッショナル」な日本語教師を目指すために

講師：荒川洋平
（東京外国語大学国際日本学研究院教授）
東京
日時：12 月 10 日（土）9：00-12：30
（受付開始 8：30）
会場：TKP 麹町駅前会議室ホール 8A
（東京都千代田区麹町 3-2 麹町共同ビル 8F）
大阪
日時：2017 年 1 月 28 日（土）14：00-17：30
（受付開始 13：30）
会場：愛日会館
（大阪府大阪市中央区本町 4-7-11）
2 会場共通
定員：各 80 名（先着順。定員になり次第締め切ります）
対象：日本語教師を目指している方・日本語教育の経験の浅い方
参加費：2,000 円
※当日受付でお支払いください。一度お支払いいただいた受講料はご返金できませんので、ご了承ください。
問合せ／申込み先：
スリーエーネットワーク講座係
102-0083 東京都千代田区麹町 3-4
トラスティ麹町ビル 2F
TEL：03-5275-2722　FAX：03-5275-2729
E-mail：kouza@3anet.co.jp
お名前・ご所属・ご住所・お電話番号、及び「日本語教授歴」・「この講座に期待すること」を明記してください。電話でのお申込みはお受けできませんので、FAX、E-mail、はがきにてお申込みください。
主催：スリーエーネットワーク

地域で活動する日本語ボランティアのための研修会 in 新宿

日時：2017 年 2 月 11 日（土）13：30-17：25
（受付開始 13：00）
会場：新宿文化センター 3F 小ホール
（東京都新宿区新宿 6-14-1）
定員：200 名
（先着順。定員になり次第締め切ります）
参加費：無料
問合せ / 申込み先：公益財団法人新宿未来創造財団地域交流課
169-0072 東京都新宿区大久保 3-1-2
TEL：03-3232-5121
E-mail：chiiki@regasu-shinjuku.or.jp
E-mail、郵送のいずれかでお申込みください。「氏名、電話番号、グループで活動中の方はグループ名」を明記してください。（12 月 5 日受付開始）
主催：公益財団法人新宿未来創造財団
協力：アルク、スリーエーネットワーク、凡人社

研修会 1「日本語教師のための 入門言語学」
講師：原沢伊都夫
（静岡大学国際交流センター教授）
研修会 2「言語習得研究から見た『言葉の学び』」
講師：和泉伸一
（上智大学外国語学部英語学科教授）
研修会 3「絵で導入・絵で練習」
講師：足立章子
（国際交流基金日本語試験センター）
テーマ書籍：『絵で導入・絵で練習』
＊当日、各研修の題材書籍や日本語教材の展示・販売を予定しております。会場限定での割り引きあり！

「みんなの日本語かるた」
ご応募ありがとうございました！

前号で募集した「みんなの日本語かるた」には国内外より多くの方にご応募いただき、ありがとうございました。採用作品は次号で発表します。

Ja-Net No.79 季刊ジャネット

スリーエーネットワークという社名は、アジア（Asia）、アフリカ（Africa）、ラテン・アメリカ（Latin America）の三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2016 年 10 月 25 日発行
●発行人　藤嵜政子
●発行所　（株）スリーエーネットワーク
Ja-Net 編集室
〒 102-0083 東京都千代田区麹町 3-4
トラスティ麹町ビル 2F
TEL: 03-5275-2722　FAX: 03-5275-2729
E-mail: sales@3anet.co.jp
http://www.3anet.co.jp/
●印　刷　日本印刷（株）
© 2016 by 3A Corporation　Printed in Japan
（禁無断転載）

●『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。
『Ja-Net』第 80 号は 2017 年 1 月 25 日発行です。